

04

シニア世代のスポーツウェア
に関する調査

Investigation on Sportswear for Senior generation

ファッション造形学科・准教授
Department of Fashion Design・Associate Professor
水嶋 丸美 Marumi MIZUSHIMA

ファッション造形学科・助教
Department of Fashion Design・Assistant Professor
鷺津 かの子 Kanoko WASHIZU

ファッション造形学科・教授
Department of Fashion Design・Professor
安藤 文子 Fumiko ANDO

ファッション造形学科・非常勤講師
Department of Fashion Design・Part-Time Lecturer
宮本 教雄 Norio MIYAMOTO

東海学園大学・教授
Tokaigakuen University・Professor
伊藤 きよ子 Kiyoko ITO

1 はじめに

日本では、第1次ベビーブーム1947～1949年生まれの団塊の世代が、高齢者の定義である65歳に到達した。内閣府の発表では、2015年10月1日現在、65歳以上の高齢者人口が3,392万人となり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）が26.7%¹⁾と超高齢化社会に拍車がかかっている。

また、2013年1月に行われた内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査」によると、週に3日以上スポーツを実施する高齢者の割合は、60歳代で42.4%、70歳代で53.6%と、年齢が高くなるほど積極的にスポーツに取り組んでいる。スポーツを行う理由も、20歳代は「楽しみ、気晴らしとして」や「友人・仲間との交流として」を挙げた者の割合が高いのに対し、「健康・体力づくりのため」を挙げた者の割合は60歳代、70歳代で高く、「運動不足を感じるから」を挙げた者の割合は60歳代が高いことがわかる²⁾。

このようにスポーツは、シニア世代において、健康的に自立した質の高い生活を長く続けるため関心が高まっている。こうした現状にあって、スポーツを実施する際に着用されるスポーツウェアは、次世代産業の巨大マーケットとして大きな期待が寄せられる。そこで、50歳代以上を対象に、運動やスポーツに取り組んでいる現状と、スポーツウェアの着用状況および購入条件などを明らかにするため、調査を行った。

2 方法

調査対象者は、65歳～75歳のアクティブシニアを中心とした50歳代以上の男女とし、2014年12月上旬～2015年1月下旬にかけて、留め置き法による調査を実施した。有効回答数は202(女性136、男性62、未記入4)である。

調査内容は、現在の運動状況に関する項目として、①運動の実施状況、②運動の頻度、③運動場所、④運動の内容、⑤運動の目的の5項目を取り上げた。また、スポーツウェアの所有と購入に関する項目として、①所有状況、②着用状況、③運動以外の場面での着用状況、④購入方法、⑤購入金額、⑥購入場所、⑦購入時に重視する項目、⑧スポーツウェアに対する不満、⑨購入しない理由の9項目に加え、スポーツウェアに付与されている機能性の認知度についても調査を行った。フェイスシートの項目は、①性別、②年齢、③居住地、④家族構成、⑤定職の有無の5項目を取り上げた。回答方法は、各項目で該当するものを選択させる方法で調査を行った。

現在の運動状況に関する項目のうち、運動場所では、「スポーツ施設」、「公園」、「自宅」、「自宅周辺」から当てはまるものを選択させ、その他の場合は自由記述欄に記入させた。

また、運動の目的については、「健康のため」「親睦のため」「好きな運動だから」「身体を動かすことが好きだから」「気分転換のため」「生き甲斐として」「記録に挑戦するため」の7項目に加えて自由記述欄を設け、当てはまるもの全てを選択させた。

次に、スポーツウェアの所有と購入に関する項目のうち、運動以外の場面での着用状況については、「就寝時」「家でくつろぐ時」「掃除をする時」「庭の手入れをする時」「近所へ買い物に行く時」「旅行」の6項目、購入時に重視する項目については、「色・柄」「デザイン」「素材」「品質」「取扱いのしやすさ」「動きやすさ」「動きやすさ以外の機能」「体形へのフィット感」「価格」「ブランド(メーカー)」「流行」の11項目に加え、いずれも自由記述欄を設け、当てはまるもの全てを選択させた。

購入場所については、「デパート」「スーパー」「スポーツ用品専門店」「衣料品専門店」「アウトレット」「通信販売」「古着屋」の7項目に自由記述欄を加え、購入場所として多い順に2位まで選択させた。

さらに、最近のスポーツウェアには様々な機能が付与されていることが多いので、その認知度を測るために調査項目を設定した。内容は、「吸汗速乾」「UVカット(紫外線防止)」「透湿防水」「抗菌防臭」「消臭」「発熱保温」「遠赤外線保温」「コンプレッション(着圧)機能」「テーピング機能」の9項目について、良く知っている:4、だいたい知っている:3、あまり知らない:2、まったく知らない:1のいずれかを選択させ、得点化して検討した。

これらの調査結果をもとに、シニア世代の運動実施状況とスポーツウェアの着用、購入との関連について χ^2 検定を用いて検討した。

なお、回答にあたり、スポーツは運動に含めるものとした。

3 結果および考察

はじめに、フェイスシート項目の結果を表1に示した。性別は、女性が136人、男性62人、未記入4人であり、うち定職に就いている人は54人、就いていない人は、144人であった。

また、年代は50歳代14人、60歳代71人、70歳代92人、80歳代21人、未記入4人であった。

表1:フェイスシート項目調査結果

性別 (人)		年齢 (人)	
女性	136	50歳代	14
男性	62	60歳代	71
未記入	4	70歳代	92
		80歳代	21
		未記入	4

定職 (人)	
あり	54
なし	144
未記入	4

次に、現在の運動実施状況について、「している」「時々している」「ほとんどしていない」「全くしていない」のいずれかを選択させたところ、「している」または「時々している」と回答した人は全調査対象者の85%であった。そこで、「している」「時々している」と回答した人へのみ運動頻度をたずねたところ、図1に示すように最も多く選ばれたのは、週1~2日(43%)で約半数を占め、次いで週3~4日(27%)、毎日・ほぼ毎日(24%)、月1~3日(6%)の順であった。

運動の実施状況については、年齢との関連を調べるために、年齢を「50~60歳代」「70~80歳代」の2分類、実施状況を「している」「時々している」「ほとんどしていない」の3分類としてクロス集計による χ^2 検定を行った。その結果、運動の実施状況と年齢との間には危険率1%で有意な差がみられ($\chi^2(2)=10.610$, $p<.01$)、表2の残差分析結果より、現在運動を実施していると回答した人は、50~60歳代に比べて70~80歳代で有意に多いことが分かった。

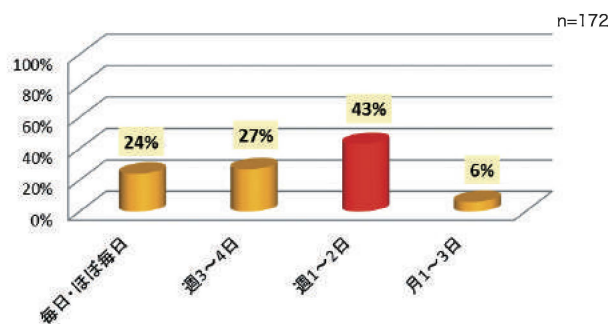


図1: 運動の頻度

表2: 運動実施状況と年齢の残差分析結果

運動実施状況	年齢	
	50~60歳代	70~80歳代
している	-2.2*	2.2*
時々している	0.6	-0.6
ほとんどしていない	3.0**	-3.0**

次に、運動を行う場所について図2に示した。最も多く選択されたのは、スポーツ施設(48%)、次いで自宅周辺(28%)、公園(13%)、自宅(8%)と続き、運動を行っている人の約半数がスポーツ施設を利用していた。

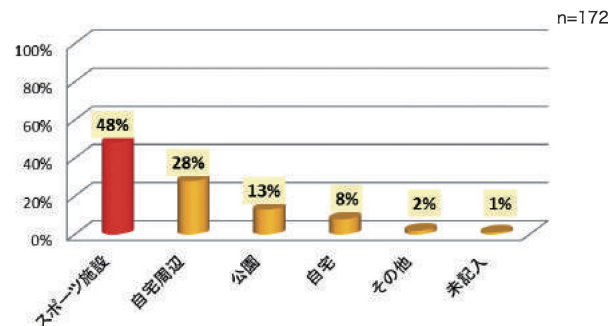


図2: 運動場所

運動内容の回答結果が図3である。最も多く挙げられた運動種目はウォーキング(33%)で、次いでストレッチ(15%)、ラジオ体操(14%)の順となり、場所を選ばず、用具も必要としない運動が多く行われている傾向であった。

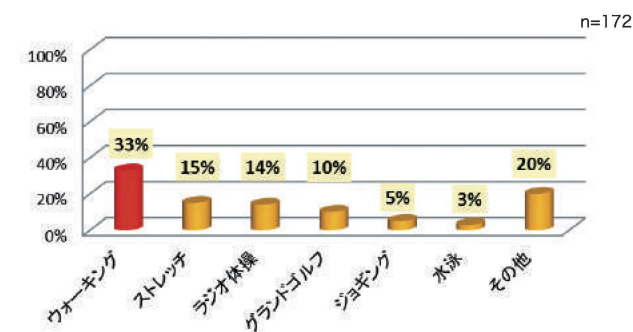


図3:運動の内容

また、運動をする目的は図4に示したように、健康のため(97%)が最も多く、平松らの報告³⁾と同様に、健康への関心が高いことがうかがえる結果となった。次いで多く挙げられた目的は気分転換のため(41%)であった。その他、親睦(26%)や生き甲斐(16%)を運動の目的とする人も存在した。長岡は、高齢者の運動・スポーツでは生理学的・身体的効果が強調されがちであるが、精神的・社会的効果が一層迫及されるべきである⁴⁾、と述べている。今回の調査では、その精神的・社会的効果を得ることを目的として運動している人が、少なくとも4割はいることが分かった。

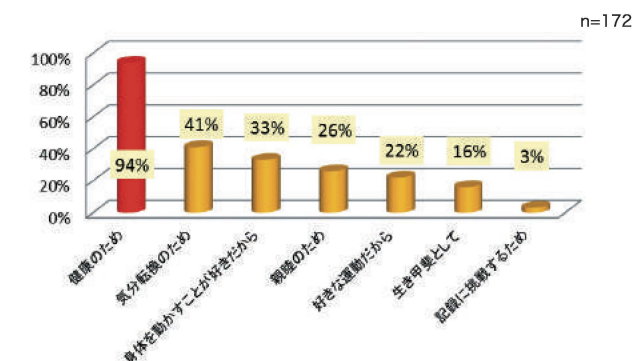


図4:運動の目的

次に、スポーツウェアの所有状況と着用状況に関する調査結果について図5～7に示した。

スポーツウェアの所有率は67%であり、運動時のスポーツウェア着用状況は、図5に示すように、いつも着用する(30%)、だいたい着用する(27%)、時々着用する(24%)の順で多かった。また、スポーツウェアの所有状況と運動の実施状況との関連について、運動の実施状況を「している」「時々している」「ほとんどしていない」の3分類とし、クロス集計による χ^2 検定を行った。その結果、運動の実施状況によってスポーツウェアの所有状況に危険率1%で有意な差がみられ($\chi^2(2)=9.666, p<.01$)、表3に示す調整済み残差より、運動をほとんどしていないと回答した人は、

そうでない人に比べて、スポーツウェアを所有していないことが分かった。

さらに、上半身と下半身に分けて運動時の着用状況をたずねたところ、上半身・下半身共にスポーツウェアを着用する(65%)という回答が最も多く、次いで下半身のみ(22%)、上半身のみ(11%)となった。

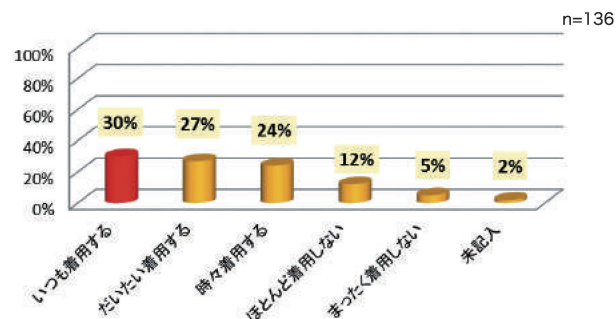


図5:運動時の着用状況

表3:運動の実施状況とスポーツウェア所有状況の残差分析結果

運動実施状況	スポーツウェアの所有	
	持っている	持っていない
している	1.3	-1.3
時々している	1.0	-1.0
ほとんどしていない	-3.1**	3.1**

上下どちらかを着用する場合には、下半身のみ着用する人が多かったため、この場合の上半身の着用アイテムについて図6に示した。下半身のみスポーツウェアを着用する場合の上半身の着用アイテムとして最も多く挙げられたのは、Tシャツ(56%)、次いでトレーナー(22%)となり、スポーツウェアでなくても動きやすいアイテムを選択して組み合わせていることが分かった。

着用状態については、運動時にスポーツ施設を利用していることと関連があるのではないかと考え、 χ^2 検定により検討した。その結果、運動場所と着用状態との間には、危険率5%で有意差がみられた($\chi^2(2)=8.529, p<.05$)。さらに表4の残差分析結果から、上半身、下半身ともにスポーツウェアを着用していると答えた人は、スポーツ施設利用者で有意に多かった。このことから、スポーツ施設に出向いて運動を行っている人は、その運動内容も様々であり、種目に適したウェアの着用が必要な場合も多いことや、着衣にも気を遣っていることがうかがえた。

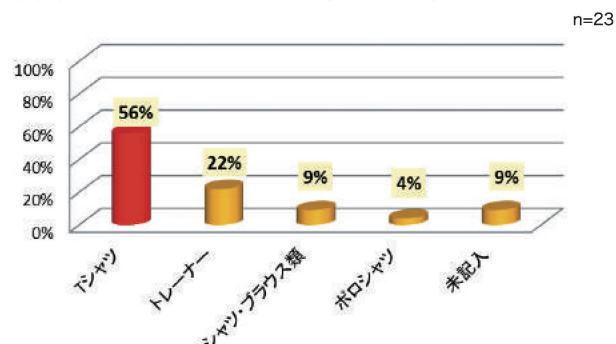


図6:下半身のみスポーツウェアを着用した場合の上半身着用アイテム

図7は、スポーツウェアの運動時以外の着用状況である。運動時以外にスポーツウェアを着用する場面として、家でくつろぐ時(47%)が約半数で最も多かった。また、庭の手入れをする時(37%)、清掃をする時(33%)との回答も多く、スポーツウェアは、運動時以外にも家庭のさまざまな場面で使用されていることが分かった。さらに、買い物(28%)や旅行(16%)などの外出時に着用するとの回答もみられた。これは、スポーツウェアの動きやすさや、外出時に着用してもだらしく見えないことが影響しているのではないかと推察された。

表4: スポーツウェア着用状況とスポーツ施設利用の残差分析結果

着用状態	運動場所	
	スポーツ施設	スポーツ施設以外
上半身・下半身	2.6**	-2.6**
上半身のみ	-2.4*	2.4*
下半身のみ	-1.1	1.1

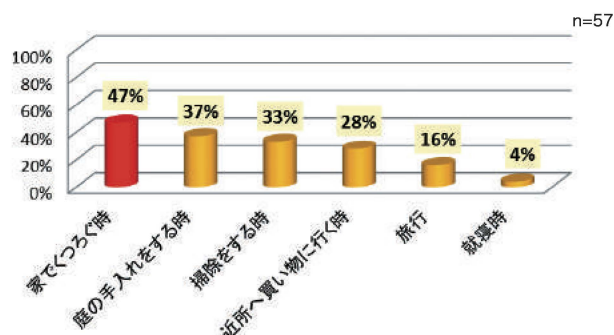


図7: 運動時以外の着用状況

次に、スポーツウェア所有者のみを対象に回答を求めた。スポーツウェアの購入に関する項目の回答結果を図8～11に示した。

まず、スポーツウェアの購入方法については、図8のように自分で購入する(88%)との回答が最も多く、家族に購入してもらう(9%)を大きく上回る結果であった。なお、自分でも購入しない(2%)という回答については、家族の古着を利用している場合であった。

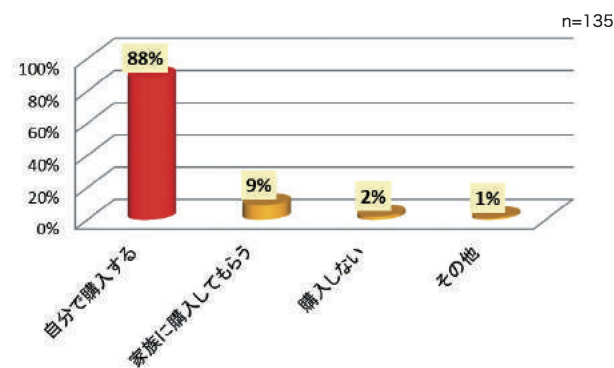


図8: 所有者の購入方法

n=135 複数回答1名を除く

次に、1年間のスポーツウェア購入金額は図9に示した。5,000円未満から50,000円以上までの回答があり、その範囲は広く、運動の内容や目的によって個人差が大きいことが推察された。回答が多かった金額範囲は、5,000円～10,000円(39%)、5,000円未満(34%)で、およそ7割の所有者は、年間10,000円未満の購入金額であった。

さらに、スポーツウェアの購入先としては、図10のようにスポーツ用品専門店(37%)が最も多く、次いでスーパー(32%)、デパート(12%)となり、その他、アウトレットや通信販売を利用していると回答もみられた。

図11に示す購入時に重視する点では、当てはまるもの全てを選ばせる複数回答形式で調査を行った。素材(66%)や動きやすさ(65%)、色・柄(61%)、価格(52%)では、約6割の人が重視すると回答しており、重要度が高い項目といえる。その他、デザイン(44%)、品質(36%)、体形へのフィット感(24%)、取り扱いのしやすさ(20%)も挙げられたが、スポーツウェアには特に、素材や動きやすさが重要視されていることが分かった。

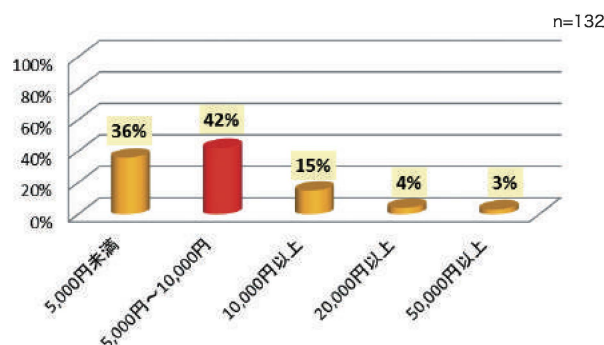


図9: 1年間の購入金額

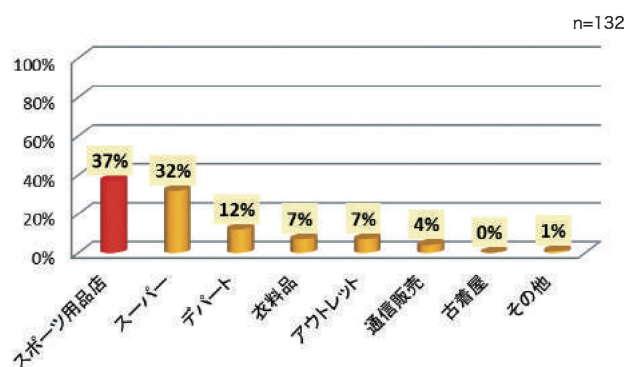


図10: 購入先

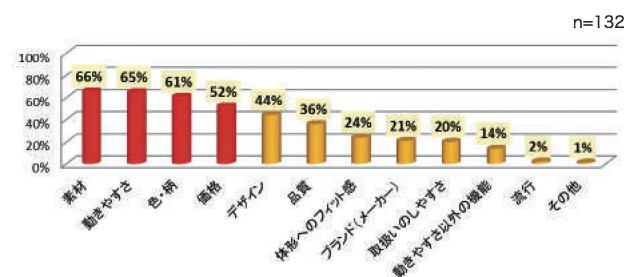


図11: 購入時に重視する点

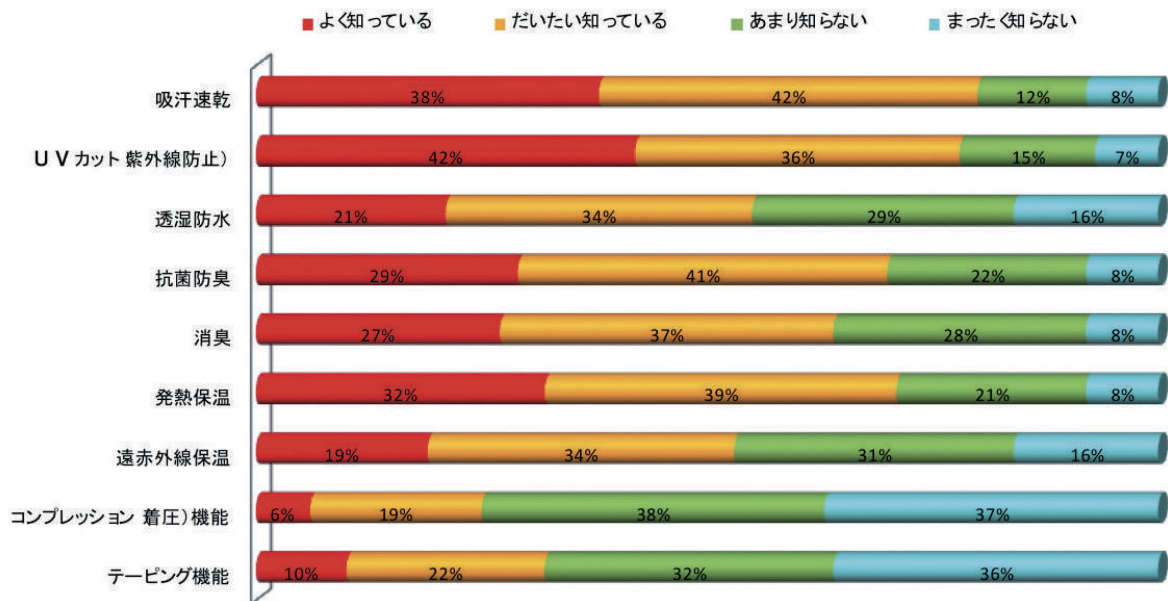


図12: 付与機能の認知度

また、普段着用しているスポーツウェアに対する不満について、自由記述で回答させたところ、価格が高額であることやサイズに関する不満が多く挙げられた。その他には、丈が長いことやサイズが合わないこと、小さいサイズが少ないこと、中高年の体型に合わないことや、中高年向けの色柄やデザインがないなどの回答も多かった。

次に、スポーツウェアに付与されている様々な機能性について、認知度を4段階でたずねた結果を図12に示した。

まず、吸汗速乾、UVカット、抗菌防臭、発熱保温機能については、「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した人が7割を超えており、認知度が高い機能性であるといえる。これに対して透湿防水、遠赤外線保温では「よく知っている」との回答がおおよそ2割、「だいたい知っている」をあわせても約半数程度にとどまり、よく知らずに利用している場合もあると考えられる。さらに、コンプレッション(着圧)機能やテーピング機能については、7割程度が「あまり知らない」「まったく知らない」と回答しており、認知度が特に低いといえる。

これらの機能性は、特にスポーツウェアなどの動作性の高い衣料では多く付与されており、認知度を高めることで利用者の増加にも繋がるのではないかと考えられる。

4 まとめ

次世代産業の巨大マーケットとして大きな期待が寄せられている、50歳代以上のアクティブシニアを対象に、運動・スポーツに取り組まれている現状と、スポーツウェアの着用状況および購入条件などを明らかにするため、実態調査を行った。その結果、以下のことが分かった。

1. 今回の調査対象者のうち、85%が定期的に運動を行っており、ほぼ毎日運動をしている人は24%であった。また、運動の実施状況と年齢との関連を調べるために、年齢を「50～60歳代」「70～80歳代」の2分類としてクロス集計による χ^2 検定を行った結果、危険率1%で有意な差がみられ、50～60歳代に比べて70～80歳代で運動を定期的に行っている人が多かった。
2. 運動を行う場所について最も多く選択されたのは、スポーツ施設であり、運動内容ではウォーキングが多く挙げられた。その他、ストレッチやラジオ体操という回答も多く、用具を必要としない運動が多く行われている傾向がみられた。
3. 運動の目的として最も多く挙げられたのは「健康のため」で、健康への関心の高さがうかがえた。
4. スポーツ施設の利用とスポーツウェアの着用状態について χ^2 検定により検討した結果、危険率5%で有意差がみられ、上半身、下半身ともにスポーツウェアを着用していると答えた人は、スポーツ施設利用者で有意に多かった。
5. 1年間のスポーツウェア購入金額では、5,000円～10,000円が最も多く、約9割は自分で購入していた。購入場所としてはスポーツ用品専門店が最も多く、特に素材や動きやすさを重視している傾向がみられた。

6. スポーツウェアに付与されている機能性について、認知度が特に高かったものは、吸汗速乾、UVカット、抗菌防臭、発熱保温機能であり、コンプレッション(着圧)機能やテーピング機能については、認知度が特に低かった。

今回の調査を通して、シニア世代の多くが健康のため運動に取り組み、特にスポーツ施設を利用している場合には、スポーツウェアの着用率も高いことが分かった。

スポーツウェア購入の際は、多くの場合、自分で選んで購入しており、素材や機能性が重視されていた。

また、取り組まれている運動として、ウォーキングやストレッチなど、高機能なスポーツウェアを必要としないものが多いことも分かった。そのため、Tシャツやトレーナーなどの日常着で対応可能な場合も多くみられた。

一方で、現在使用しているスポーツウェアに対しては、価格やサイズなど多くの不満が挙げられている。これらの不満を解消することで、新たな需要を生み出すことが可能となるであろう。

加えて、シニア世代の健康志向の高まりは非常に大きく、今後もその傾向が続くと予想されるため、スポーツウェアの開発は想像以上のマーケットが期待される。

以上のことから、今後もアクティブシニア世代がスポーツウェアに求める条件を把握し、ニーズに合った商品の提案が必要であると考ええる。

引用・参考文献

- [1]内閣府:『平成28年版高齢社会白書』、2016
- [2]内閣府:『体力・スポーツに関する世論調査』、2013
- [3]平松携・永戸節子・岡崎宏一・吉岡清香:高齢者のスポーツ行動に関する研究(Ⅰ)ー運動・スポーツ経験の分析からー、日本体育学大会号 39A pp.104、1988.
- [4]長岡雅美:社会を育てるスポーツの力ー高齢者におけるスポーツの心理的・社会的効果に着目してー、人間福祉学研究 第5巻第1号 pp.39-49、2012.
- [5]音成陽子:筑前町高齢者における運動習慣の実態、流通科学研究 第15巻第1号 pp.1-12、2015.